

# 令和5年度自己評価結果公表シート

幼保連携型認定こども園 常磐会短期大学付属いずみがおか幼稚園

## 1、本園の教育目標

温かく安らぐ生活の中で、豊かな感性、好奇心、思考力の基礎を培う

### 【望ましい子ども像】

- ・健康な生活の仕方を身につけ、自分のことを自分でしようとする子ども
- ・自分を大切に、友達も大切にする子ども
- ・ちがいを受け入れ共に育ちあう子ども
- ・よく見、よく聞き、よく考える子ども
- ・心をうごかし、やってみようとする子ども
- ・感じたことを豊かに表現し、自分らしくのびのび生活する子ども

## 2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・一人一人のよさを強みにし、違う意見や考え方にも目を向け新しいものを生み出し改革していくことで保育の質向上を目指す。
- ・園の保育（教育理念）や子どもの育ちを保護者のみならず広く地域にも広め、園への理解を深め園児獲得につなげる。
- ・教職員の働き方と仕事内容の見直しを行う。

## 3、達成状況

【研究テーマ】 『 互いの「ちがい」を受け止め 理解しようとする 』

### (1) 「幼保連携型認定こども園としての保育・教育」

- ① 在園児と未就園乳幼児に本園の園庭や空き保育室を定期的に遊び場として提供したことで、同年代の子ども同士が一緒に遊んだり、子どもを介して保護者同士がつながり「子ども」について話せる関係性が出来たりしてきた。また、保育教諭とのかかわりを重ねていく中で、家庭で気になることや困っていることについての質問を受けることも出てきたことから、園に対する安心感が見られた。
- ② 家庭で親子が安心して過ごせるよう地域や関連機関と密に連携し見守りを進めてきた。  
また、保護者の希望により療育機関と園と保護者の合同カンファレンスを行い、保護者の願いをもとに今後の支援の仕方を考える機会をもった。
- ③ 保護者アンケートより、「保護者対応や保育内容について、教職員によって対応に差がある。」「園内の安全面についてはフェンスの高さが低く不審者が入れるのではないか。」といった意見があった。一方、子どもの気持ちを丁寧に受け止め対応してもらっていることで安心してるといった意見もあったことを受け止め、相手の立場に立って対応することの大切さを再確認した。
- ④ 認定こども園となった3付属園で連携をとりながら、地域、形態の差を考慮し互いの保育の資質向上や園児募集方法など合同で話し合う場を設けたり新任教諭の育成のための研修を行ったりし個々の保育形態や働き方など互いの資質向上ができるよう取り組んだ。

### (2) 「園児の生活の充実として」

- ① 新型コロナウイルスが第5類となったことで行事のあり方をコロナ前に近い状態で行った。
- ② 危機管理マニュアルの改訂をするとともに、堺市消防局より救命救急講習に来ていただき心肺蘇生法や異物除去、止血法などの実地訓練と講習を受け緊急時の対応の強化を行った。
- ③ 不適切保育やヒヤリハットについて受講し、自分の保育について見直す機会をもった。また複数の観

点から子どもの姿を予想し安全面に配慮することと、ヒヤリハットの報告を皆で共有し子どもの目線になって注意箇所の確認、子どもの状態把握にも努めた。

- ④ 昨年に引き続き園内教育・保育研究の様子をビデオ撮影し行った。  
保育教諭それぞれが持つ課題については、日々の保育の振り返り、それを受けての計画、PDCAの見直しを強化した。研究保育でのフィードバックについてはそれぞれの保育教諭の考えを大切にすることから本人が自分なりに保育に活かそうとする姿を見守ることも大切にした。
- ⑤ 保育ブックナビ（株式会社フレーベル館発行）「研修アドバイザーと創る新しい園内研修のかたち」で本園の園内研修の様子が取り上げられ掲載された。
- ⑥ 仕事の効率化として係の分担をしているが、目標期日の明示、そこに至るまでの計画、進捗状況を報告し合うことでそれぞれがより意識しゆとりをもって仕事が進められるようにした。
- ⑧ 園内教育・保育研究の記録をまとめ研究誌「あしあとXXVII」を刊行。

### (3) その他

- ① 高校生が「探求の授業」で本園を訪問した。東大谷高等学校2年生3名は「感情と表情の関係性」男女差年齢差はどのように見られるか？という視点で観察と教職員へ質問をした。また、宮城県2年生3名が修学旅行中に来園し「眠育」についての学びを深めた。
- ② 地域との連携、つながりが活発に行えた。（三原台小学校1年生・5年生交流会、みはらまつり、みはら文化祭り子育てフォーラム、三原台敬老会の方より手縫い雑巾の寄贈を受けた。）
- ③ 年長児と保護者対象に「小学校出前授業」を行う。堺市立三宝小学校校長 安原 巧氏を迎え子どもには模擬授業、保護者には小学校進学に向けて講演していただき、小学校進学への期待を膨らませた。

## 4、学校関係者評価

- ・「みはらふるさとまつり」での5歳児の和太鼓演奏がとてもよかった。「子ども達から元気をもらえた」という方々の声や来年も是非参加してほしいという声が寄せられた。。
- ・幼稚園の行事「おはなしの会」に地域の未就園児も案内してもらえ、未就園児親子の過ごせる場所が増えてよかった。
- ・バイクがスピードを出して通学路を通行、車のマナーが守れていない等での「ヒヤリハット」案件がある。警察の巡回依頼もしているが注意喚起をすることで事故予防が必要である。
- ・巡回相談だけではなく、学校の先生が幼稚園の生活を見る機会、幼稚園の先生が1年生の生活を見る機会がよりもてるようにできると、小学校入学に向けて滑らかな接続となるのではないかと。

## 5、今後取り組むべき課題（令和6年度計画）

『子ども・子どもにかかわる大人のウェルビーイング 成長の支援を考える』

- ① 就労家庭のみならず在宅で子育てを行っている家庭への子育て支援も充実させる。
  - ・未就園乳幼児の育ちの保障として遊び場の提供をする。
  - ・子育てにかかわる大人の居場所づくりの充実を行う。（未就園児親子クラス・親と子の育ちの場ふれあいランド・一時預かりでリフレッシュタイムの確保）
- ② 家庭や地域、関連機関と積極的に協力・連携し、子どもの情報を共有しながら、長期的な視点で一貫した家族支援を行う。特別支援教育（発達支援・虐待防止・保護者支援を含む）の充実、専任・兼任保育教諭が幼児の特性を共通理解し一人一人に応じたかわりや家族支援をする。
- ③ 学年だより、ドキュメンテーション等の工夫により園での様子がより伝わるようにする。

## 6、財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。